

令和6年度 地域福祉活動支援事業 ホームページ用報告書

神奈川県社協ホームページに掲載しますので、助成事業の概要を簡潔に記入してください。

※必要事項を記入または☑ 1ページ以内に収まるよう作成

団体名	寺子屋		
団体の属性	☐ セルフヘルプグループ・当事者等 ☒ ボランティアグループ等		
	☐ 市町村社協やそれを構成員とする実行委員会等		
助成区分	☒ 一般助成	☐ 協働モデル助成	協働モデル助成 本会提示テーマ
助成事業名	寺子屋（学習の部・食堂の部）		
事業の目的	生活に困難を抱え、地域で孤立しがちな家庭の子供たちに食支援と学習支援（中学の数学）をする。		
事業概要	① 教室の部 毎月2回各週の土曜日に実施している。時間は2時間で、中学の数学（系統的学習）を指導をしている。平均して、5人～6人の中学生が参加している。習熟度に応じた1対1対応での指導をしている。 ② 食堂の部 毎月1回、第四土曜日に町民センターを借りて、10時から14時くらいで開催している。子供は無料で実施しているが、大人の参加もある。参加については、直接スタッフへ申し込むこともあるが、町民センターと、社会福祉協議会のカウンターに箱を設置して受け付けている。 平均して子ども20名、大人10名くらいの参加がある。メニューは、地域の活動団体や個人、社会福祉協議会などから寄付される食材（野菜・パン・果物・米・パスタ・・・）を活用するかたちで決めている。		
成果や課題	① 教室の部では、授業では理解できなかった数学の内容が、寺子屋での1対1指導によって理解できるようになり、中学3年生においては、希望の高校に入学できた。また、中学校では孤立気味の生徒の居場所となっている。来て欲しいと思う生徒にむけて、どのように勧誘していけばいいかが課題である。 ② 食堂の部では、母子家庭で、生活に困難を抱え、孤立しがちな家庭の子供が楽しみに来ている。また、そのような家庭の母親が、この取り組みを通してコミにケーションがとれるようになってきた。また、不登校気味の子供も、食堂の手伝いに来て一緒に作って食べているが食育や自立と言う視点からも1つの成果だと思う。時に参加者が30人以上になるため、より多くの食材と、広い場所の確保が課題である。		
今後の展望	① 教室の部では、数学のわからなくて困っている中学生の助けになるだけでなく、多感な生徒たちにとって、自分の悩み等が気楽にスタッフに相談できることで、自立に向けた支援の場所になってきたで、今後もこれを継続していきたい。 ② 食堂の部では、支援の必要な家庭の子供たちだけでなく、地域の方々にとっても食を通して繋がる場になってきたが、今後もこれを継続していきたい。		
活動の様子が分かる画像 2枚程度添付	 		